

福田 恵

MEGUMI FUKUDA



" 永遠の庭 (よそ者として、ベルリン) " 2008年

Open-Air-Performance, RE-IMAGINING ASIA, the House of World Cultures, 2008.
Photography courtesy of Yoshihiko Shikada



" 永遠の庭 (よそ者として、ベルリン) "
2006-2007年

自然と人工の曖昧な境界とその浸食的な関係性、あるいは個を規定する枠組みの暴力性や、有機物が分解され土壌と一体化(死)することから生を見つめることで得られる普遍的な死生観などについて、主に写真やインスタレーションを通じて可視化し、それらの知覚認識と思考・対話を誘発する作品制作を行っている。近年では、広島を歴史を背景に、未来の文化的土壌から現代に生きる私たちの人生をどのように豊かに形成でき得るのかという問いから、様々な専門家が交錯するための異分野間プラットフォームとして、コレクティブ「イエロー・リバー・カレッジ」を主催している。

1976年広島県生まれ、広島県在住。広島市立大学大学院芸術学研究科修了。ハノーバー専科大学にて藤原信氏、ベルリン芸術大学にてレベッカ・ホルン氏に師事。2006年ポーラ美術振興財団在外研修員としてベルリンに滞在。在独12年を経て帰国後、安田女子大学家政学部造形デザイン学科専任講師(現職)。国内外での個展、グループ展、レジデンス招聘多数。主な展覧会に「一日は、朝陽と共に始まり、夕陽と共に終わる」(Setouchi L-Art Project, 福山/広島、2023)、「1日は日の出と共に始まる」(ポモナ大学ベントン美術館、アメリカ、2022)、「台北(の)詩」(寶藏巖国際芸術村、台湾、2016)、「Distant Observations. Fukushima in Berlin.」(クンストラウム・クロイツベルグ/ベタニエン、ドイツ、2014)等。

<http://www.megumifukuda.com/>